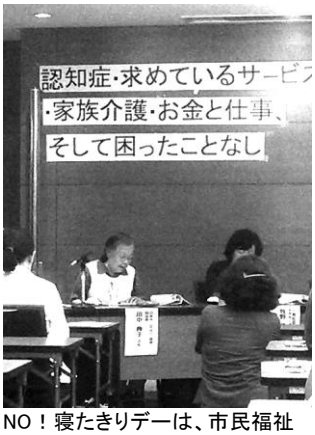
NO！寝たきりデー2013

平野ひろみ

今年のテーマは「介護保険から 13 年、在宅で暮らしつづけるために一今あらためて介護で困っていること、本人、家族にききました！」です。市民 300 人に向けての調査を自由記述アンケートで実施し、「認知症・求めているサービス・家族介護・お金と仕事・困ったことなし」の５項目に分けた回答の報告がありましたが、どれも制度では割り切れない生活の問題ばかりでした。

ケアマネージャー、ヘルパー、介護者、自治体職員等から「もう一度生活を支援するしくみを模索する」視点から課題提起されました。ひとつには介護保険によって専門職が様々な形で支援に入れるようになったが、家族関係の調整、介護者支援などトータルな支援をするコーディネートが必要になっていることがあります。さらに、地域資源を活かした多世代型・小規模多機能拠点をふやすなど、高齢者を支える地域づくりへの議論の場は熱気いっぱいになりました。



NO！寝たきりデーは、市民福祉サポートセンターの主催で毎年開催され今年で24回目となる。

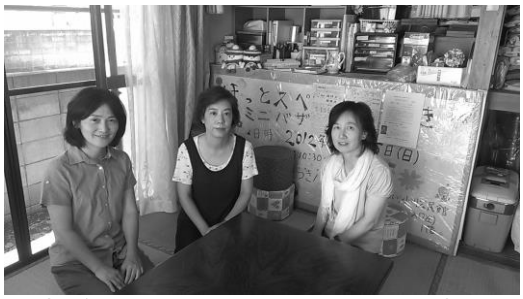
気軽に立ち寄れるご近所のような場

日向美砂子

コミュニティ・サロン「ほっとスペースさつき」を訪問しました。さつきは、今年３月にオープンした地域の居場所で、白梅学園大学と地域の協働による小平西地区ネットワークが運営しています。鷹の台駅から徒歩５分ほどのアパートの一室で、日あたりのよいとても落ち着く空間です。

これまでお年寄りや一人暮らしの方、親子連れなどのべ 600 人以上も訪れているとのこと。100 円のお茶代で過ごすことができ、地域住民や大学生などのボランティアスタッフもまじえ異世代交流の場にもなっています。気軽に立ち寄り雑談できる場はかつてのご近所づきあいのような雰囲気で、公共施設とは違う魅力です。

市民協働・コミュニティ施策の一環として月々の維持管理費の助成など、行政にできるサポートもあるのではと考えています。


さつきは毎週火曜日と木曜日、10:00～16:00 開かれている。

発達障がいの子どもたちの放課後事業がスタート

岩本ひろ子

障害児の放課後等デイサービスが国の制度として位置付けられ１年になります。この秋から喜平町１丁目のマンションの１階に小平で初めて発達障がい児を対象とした事業が始まります。運営しているのは「アート療育 FACT」で創作活動を通して子どもたちの感性やコミュニケーション能力を養っていきたいと、陶芸のプログラムを中心に療育活動を行っています。

ここでは、子どもに寄り添いながら１人ひとりの子どものペースに合わせ関係機関とも連携しながら、子どもたちの成長支援をしています。

代表の彩さんは、人間関係を大事にしながら最終的には子どもたちの自立支援までを目標にしていると話されていました。

お子さんがここに通うようになり精神的に落ち着いたとの保護者の方の声もあるようです。子どもはもちろん保護者にとっても地域の中でほっとできる場所が求められており、今後の活動に注目したいと思います。

白で統一された居心地のよい空間で子どもたちが放課後を過ごしている。